令和５年度自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み
1 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、３年間・５年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① ＩＣＴ機器の利活用や授業形態を工夫することで、生徒の主体的な学びを確保する。	「ペア学習、班活動、話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」 と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満 である。	先生は協力して学ぶ機会を設けていると評価した生徒の割合 １年生　８３．８％ ２年生　８４．２％ ３年生　８９．９％ 専攻科　８６．７％ 全　校　８６．２％ 評価　Ａ	中間評価と比較し１年生 3.1%、２年生 2.3%、３年生 2.5%、全校 1%肯定評価が増加した。専攻科生は 1.7%肯定評価が減少した。クロームブックを活用し、調べた内容を考察する場面を意図的に取り入れた。また、看護臨地実習・介護実習での学びを共有し、今後の課題を発表する機会を多く設定した。課題解決型学習や生徒が協働して学ぶ機会を設けるとともに、ＩＣＴ機器の利活用を一層推進する。
	② 協働して課題の解決などに取り組む学習活動を通して生徒の主体的な思考を促す。	「自分の考えを文字や発言で表現したり、他者の意見をしっかり聞いたりしている」 と評価した生徒の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満　である。	自分の考えを表現したり、他者の意見を聞いたりしていると自己評価した生徒の割合 １年生　８０．０％ ２年生　７９．０％ ３年生　７９．６％ 専攻科　８１．３％ 全　校　８０．０％ 評価　Ｂ	中間評価と比較し１年生 5.4%肯定評価が増加した。２年生 5.1%、３年生 8%、専攻科 3.4%肯定評価が減少した。調べ学習、プレゼンテーションなどクロームブックを活用した授業が増加している。しかし、その成果を対話で共有することが不十分だった。主体的に学ぶ態度を育成するために、協働して課題に取り組む学習活動を一層取り入れる。また、他者に思考内容を直接伝える工夫が身につくように改善を図る。
	③ 〈衛生看護科〉 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	〈衛生看護科１～３年生〉 偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１～２人 Ｃ　３～４人 Ｄ　５人以上 である。	〈衛生看護科 1～3 年生〉 偏差値４０未満の生徒が ２年生　０人 評価　Ａ ３年生　０人 評価　Ａ	２、３年生は、９月に全国模試を実施した結果、全員が看護師国家試験合格レベルに到達していた。また、学校偏差値については、２年（60.3）、３年(60.6)である。科目別では、理解度の高い「人体の構造と機能」(偏差値 60.6)に比較して「基礎看護」(偏差値 54.8)であるため、今後も授業改善を行い、学習の深化を図る。１～３年生は、１～２月に全国模試を予定していたが震災のため実施できなかった。来年度、学習の成果を評価する。

			〈専攻科１年生〉 基礎力を確認する全国看護師国家試験演習の偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　である。 〈専攻科２年生〉 全国看護師国家試験演習の偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　である。	〈専攻科１年生〉 基礎力を確認する全国看護師国家試験演習の偏差値４０未満の生徒が １人 評価　Ｂ 〈専攻科２年生〉 全国看護師国家試験演習の偏差値４０未満の生徒が ０人 評価　Ａ	１２月に基礎力全国模試を実施した結果、学校偏差値は 56.5 と第１回より 0.5 の上昇が見られ、偏差値 40 未満の生徒も２人から１人に減った。しかし、偏差値 40 代の生徒が８人と前回より３人増え、昨年度の学校偏差値（60.7）と比較すると 4.2 低い。今後も個別指導はもちろん、クラス全体の学習意欲を高めるような関わりを工夫していきたい。 １２月に実施した全国看護模試の学校偏差値は 58.5、全員が偏差値 45 以上と看護師国家試験合格レベルに達している。しかし、現在震災のためオンラインを中心とした授業を行っている。国試が迫る中、学習合宿を企画し、生徒が集中して学習できる環境を作った。生徒全員が参加でき、国家試験に対する意欲や姿勢は大変前向きで真摯に取り組んでいる。今後も生徒の精神面や体調に留意し学習環境を整えていきたい。 看護師国家試験全員合格（3／22）
		④	〈健康福祉科〉 〈１年生〉 課題に主体的に取り組む姿勢が身につくように、課題の意義を納得できるように提示したり、個別指導を行ったりする。	〈１年生〉 課題を提出する生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　　９０％以上 Ｃ　　８０％以上 Ｄ　　８０％未満	〈1 年生〉 １２月末において、課題を提出している生徒の割合が ８８．３％ 評価　Ｃ	ほとんどの生徒が課題を提出できるようになったが、期限内に提出できない生徒が多い。提出できていない生徒には働きかけを継続して行っている。今後も、学習の意味、課題に取り組むことの意義が理解できるように指導の工夫を行っていく。また、個別指導を継続するとともに、期限を守ることの重要性を加えて指導していく。

			〈２年生〉 各種検定に合格する経験を重ね、向上心を持って学習できるように、１人ひとりに応じた目標設定を行う。 〈３年生〉 介護福祉士国家試験全員合格に向けて、小テストや個別指導を行う。	〈２年生〉 検定に１つ以上合格している生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　　９０％以上 Ｃ　　８０％以上 Ｄ　　８０％未満 〈３年生〉 国家試験演習等で個人得点率が６５％未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　である。	〈２年生〉 １２月末時点で検定に１つ以上合格している生徒の割合が ４２．８％ 評価　Ｄ 〈３年生〉 １２月２８日実施の国家試験演習において個人得点率が６５％未満の生徒が １人 評価　Ｂ	２学期までに実施された英語検定、介護福祉・社会福祉検定に１つ以上合格した生徒は２１名中９名である。３学期に受験する漢字検定に向けて個別指導を取り入れ、１つ以上の合格を目指すように指導していく。 １２月１０日に実施した国家試験と同レベルの介護福祉・社会福祉検定１級では６５％に満たない生徒は１１名であったが、１２月２８日に実施した国家試験演習結果では得点率６５％に満たない生徒は１名であった。全ての生徒が安定して６５％以上の得点率となるように、全体指導、個別指導を細やかに行っていく。 介護福祉士国家試験全員合格（3／25）

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み
2	本校の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身と　コミュニケーション力の育成を図る。	①	「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が Ａ ９５％以上 Ｂ ８５％以上 Ｃ ７５％以上 Ｄ ７５％未満　　とする。	9 月の生徒アンケートで「大いに高まった」「高まった」と回答した人の割合は 97.7%　評価　A 「大いに高まった」 55.9% 「高まった」 41.8%	「意識が高まった時」の問いに、80 名（46.2%）が授業、91 名（52.6%）が講演会と回答。「意識が高まらなかった」の理由には「いじめについて考えることがなかった」や「常に意識している」の回答があった。入学当初は人間関係の構築がうまくできないことがあり、１学期は１年生を中心に講演会を開催し「いじめ」への意識を持たせた。コミュニケーション不足からの誤解が生じその修復ができずいじめと取られる行為に至ることがある。今後も相談課や保健課と連携を取りながら、いじめの未然防止・深化防止に進める。

		②	立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　　とする。	12 月保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」と回答した人の割合は 「できている」53.1% 評価　Ｄ	「立ち止まっての挨拶」への取組が課題。昨年度の68.4%（Ｃ評価）から 15.3%も減少している。生徒会からの挨拶推進運動への働きかけが少なかったことが大きな要因。前期は外部の方から積極的な挨拶があるという高い評価をいただいていたが、後期は生徒への声かけが少なかったため、生徒が自主的に挨拶する雰囲気を作れなかった。指導を再考し提案していく。「わからない」の回答は 35.0%
		③	運動行事の事前練習やケガ予防、放課後活動の活性化のため、合同部活動を実施する。	合同部活動後のアンケート結果で満足と答えた生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満　である。	日程調整、場所の確保、参加希望者が少なく実施できなかった。	来年度以降実施する際は、日程を年度初めに計画し、場所の確保をしておく。また、合同部活動の予告を早めに行う。合同部活動を行う意義を生徒に伝え参加希望者を増やしていく。
		④	足本来の機能を取り戻すことを目指し、Foot 活プロジェクトに取り組む。	歩行解析デバイスを用いた AYUMIEYE 測定を 2 回実施し、総合点数を夏と冬で比較する。冬の点数が夏より向上している生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。	被災により冬の測定は未実施のため、比較することができなかった。	来年度以降に AYUMIEYE 測定を実施し、本年度の結果と比較し、評価できるようにする。また、歩行改善には、継続した Foot 活体操が必要であることを確認し、実習期間中や考査期間中でも各自で運動に取り組むように意識付けをする。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療･福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会の内容を充実させるとともに、情報誌、ホームページ、動画などを活用し本校の魅力を発信する。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が１．００倍を Ａ　上回った。 Ｂ　同程度だった。 Ｃ　下回った。 Ｄ　大きく下回った。	衛生看護科　０．７１倍 健康福祉科　０．２２倍 評価　Ｄ	地元からの志願者数は減少傾向である。地域の保健・医療・福祉に貢献できる有意な人材の育成を目指した本校の取り組みを中学生・保護者に分かりやすく魅力的に伝える必要がある。 令和６年能登半島地震後の生徒募集について、関係機関と連携し、県内の看護・福祉を志す生徒が安心して学べる環境づくりを進めていく。
	② 本校の特色ある取り組みや学校の様子を継続的かつ魅力的にホームページで発信する。	ホームページの月の平均閲覧数が４月と比較して、 Ａ １．５倍上昇した。 Ｂ １．３倍上昇した。 Ｃ 変わらなかった。 Ｄ 下回った。	４月の月アクセス数７００件と比較し、月平均のアクセス数が６３４件 評価　Ｄ	４月の月アクセス数は７００件程度であったが、９月以降の月平均アクセス数は６３４件と減少している。 ホームページの更新は例年並あるいはそれ以上行っている。一方で、メール配信によるホームページ更新のお知らせを行うようになったことで、例年と異なり、何度もホームページを確認する必要がなくなったため、月に複数閲覧する生徒・保護者の数が低下したことが予想できる。 　また、生徒・保護者に加え、地域の人々、中学生等がより多くホームページを閲覧してもらうための導線が必要だと考えられる。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み
4 ＧＩＧＡスクール構想に基づいた教職員・生徒のＩＣＴ機器の利活用を進めるとともに、業務の効率化・多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、ＩＣＴ活用の定着を図りながら業務の効率化を進める。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が、 Ａ　７５％以上 Ｂ　６５％以上 Ｃ　５５％以上 Ｄ　５５％未満　である。	一月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が ７０．３％ 評価　Ｂ	月ごとにバラツキがあるが、一月あたりの平均をとると、昨年度の７０．９％と比べてほぼ変わらない数値となった。 業務の効率化が浸透しているが、固定化された教員が長時間勤務している実態が依然として見られる。業務の平準化をよりいっそう推進するとともに、共有ドライブの利便性を周知し、職員間の連絡や協働作業、フォームを活用したアンケート処理など今後も業務の効率化を図っていきたい。